

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホームプランタン	評価実施年月日	平成21年12月25日
評価実施構成員氏名			
記録者氏名		記録年月日	平成22年1月8日

北海道

は外部評価項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
Ⅰ. 理念に基づく運営				
1. 理念の共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	理念は「私たちは、入居者の権利を尊重し住み慣れた地域で安心した生活できるように支援します。」と、皆様が分かり易い内容になっています。		
2	○理念の共有と日々の取組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	管理者と職員はケア理念を理解し、実践に向けて取り組んでいます。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	入居時には家族に理念を説明し、ホールの見やすい場所に明示しています。また、運営推進会議を利用し地域の方にも理解して頂いています。		
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	事業所の見学はいつでも受け入れ出来るようにしています。運営推進会議にも隣近所の方、近くの商店の方にも出席を呼びかけています。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	町内会に加入、敬老会や祭事に参加しています。地域の医療機関の往診、商店への買い物を通じ交流を図っています。また施設周辺の散歩の際にご近所の方に声を掛けて頂いたり、家庭菜園の野菜を頂いたりして利用者も喜んでます。	○	来訪される方にも不便はかけていますが、私達、現場の職員としても「グループホーム プランタン」の表札を設置して頂けるように経営者には話しています。
6	○事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	当事業所にはデイサービスセンター、有料老人ホームが併設されている為、地域の高齢者の必要としているケアを提供出来るように考えられています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	前年度はユニット別に自己表価を作成しましたが、前年度の調査員の対応では、職員の全員参加の中で一括した方がスムーズと思いました。	○	評価結果、改善点等を職員ミーティングで取り上げたい。改善したいが私達職員では出来ない事もあります。
8 ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	事業所の近況報告、要望等を聞いてサービスの向上に活かしています。		運営推進会議は出席メンバー、開催回数、内容との改善されています。
9 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	市の介護高齢課などには普段から相談に乗って頂いたり、すぐに連絡出来る関係を築いています。		
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	市や他事業所、関連施設などから連絡された研修会や勉強会等には積極的に参加し、得た情報に関し必要を要するか都度検討している。		
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	身体拘束廃止委員会の設置と共に、ミーティングにて高齢者虐待防止法の説明を行っている。また、研修にも参加するようにしている。		
4. 理念を実践するための体制			
12 ○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約や解約時に十分な時間を取り説明を行い、理解・納得を得られています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議に利用者も参加して頂き、意見、不満、苦情等を自由に表せる機会を設けています。また、常に管理者や職員が受け付けし全員で迅速な対応が出来るよう努め、家族にも協力を求めています。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	事業所では少なくとも1ヵ月に1度は面会に来て頂き報告をしたいと思いますが、家族の方にも都合があり難しい方もいます。その場合には電話や手紙で報告しています。		広報誌「プランタンだより」を毎月発行しています。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族からの意見や不満、苦情等は管理者や職員にて都度対応出来るように指導し、契約書内にも外部者への苦情申し立て期間が明記されています。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員の意見を聞くためのミーティングを月に1回開催し、その中で職員は自由に意見を出し意見交換の場としています。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	入居者の状況、生活の中で必要に応じて職員を配置しています、		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	職員同士の十分な引継ぎ、入居者への説明、新任者の紹介を利用者一人ひとりに合わせて説明方法を工夫するなど利用者へのダメージを最小限に防ぐ配慮をしています。最近は退職する職員が少なく、馴染みの関係を築いています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	研修等はその職員のレベルに合った研修を受講してもらい、受講した職員が他の職員に対し勉強会を行う事によりスキルアップを目指しています。プランタンでは伝達研修を取り組み始め、事業所内研修も行われています。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	地域で開催の会議には参加し、他事業者との交流を深めています。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	いつでも相談出来るような体制を整えています。管理者も職員とコミュニケーションを図り何でも相談出来る関係を築くように努力しています。		
22	○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	管理者や他職員からの情報、定期的な会議により状況は把握されています。介護職としてプロ意識を持ち勤務してもらっています。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	利用前から本人との面談時間を設けコミュニケーションを図るように努力しています。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	入居時の環境変化により不穏状態になる恐れがあることを家族に説明し、家族側としての状況の聴取の機会を作っています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	利用者が安心して生活出来るように、家族と共に見学、お試し入居などをして頂き、不安解消に努めながら、サービスの提供を開始できるようにしています。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入居前に入居者や家族と十分に面談を行い、見学した後に入居となっています。信頼関係を築きながら、利用者や家族が安心して納得できるよう適切なサービス開始の調整を行っています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	入居者一人ひとりの経験や得意なことを見極めて活躍できる場面作りの支援が行われています。また、入居者から昔の話や知恵を教わったり、ともに支え合う関係作りが築かれています。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	生活の様子を定期的に連絡、報告し、家族の協力と理解を深めながら、家族の意向や希望を聴取し共有できる関係を形成しています。	○	中には無関心な家族もいますので、これからも家族とも信頼関係を築けるように努力していきます。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	双方の差し支えない中で介入しながら、その都度の現状報告や把握にて、理解を得られています。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	家族の協力も必要になる場合もありますが、入居前のかかりつけ病院や買い物していた店などに行けるように支援しています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	職員が介入しながら、トランプなどを楽しんだり、利用者同意がトラブルにならないような配慮も行っています。	○	居室に閉じこもる事無く、日中は談話室で過ごしてもらい、利用者みんなが楽しめるようなレクリエーションを考えています。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	サービス利用が終了しても関わりを必要とする状況に関しては相互に密な連絡を取りながら最善の方法を選択出来る付き合いをしています。		今まではサービス終了は利用者が死去した場合が殆どでしたが、今後必要な場合は関係を絶ち切らない取り組みを行なっています。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者一人ひとりの生活歴を把握し、利用者の意向を尊重し支援しています。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	これまでの暮らしを本人や家族から聞き取っています。また、他の事業所から情報を得る事もあります。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	認知症の程度により、各入居者の技量や知恵を引き出すことに差があり、万全とは言えないが一日一日が感情豊かで自然な形で持てる力を発揮できるように努めています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	本人の意向を尊重し、安心して穏やかな生活を送れるように本人、家族、職員がそれぞれの意見を出し合い作成しています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	基本的には6ヵ月を期間としていますが、毎月の評価の中で状況に応じて介護計画の見直しを行っています。		
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	毎日の出来事や変化は各個人の介護記録に詳しく記録し保存しています。介護記録により経過を把握し介護計画の見直しに活用しています。	○	職員一人ひとりが介護計画に沿った介護記録が出来るような指導をして行きたいです。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	本人や家族の希望に応じて、かかりつけ病院への通院介助や外出時の付き添いなど柔軟な支援が実践されています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○ 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	学生や一般ボランティアや警察など認知症の理解を求めながら働きかけを行い協力しています。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	他事業所との連携を図り、他のサービスを利用するための支援を行っています。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	入居者の必要に応じて地域包括支援センターと協働したいと思っています。		地域包括支援センターの開催する研修等は参加し情報を得ています。

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援をしている。	入居前のかかりつけ病院の受診は継続できるように支援しています。協力病院の定期往診、24時間対応を行っています。		かかりつけ病院への通院が困難となった場合には、本人、家族と相談し往診対応の検討を行っています。
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	地域に認知症の専門医があり、定期的に受診している入居者もいます。必要に応じて受診する事も出来ます。		
45	○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	医療連携の看護師による定期的な訪問により、健康管理を行い、職員も利用者の健康に関し相談できる体制が整っています。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院に際し、家族と相談しながら一日も早く退院出来、安心できる生活が送れるように担当医にも働きかけています。また職員も利用者の状態を相談できる体制になっています。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	入居時にも本人、家族の意向を聞いています。入居者の状況を把握しながら、医療機関、家族、職員との間で話し合いの中で方針を決めています。看取りの指針を作成しています。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	事業所でできる事は限られていますが、医療機関との連携を図りながら支援しています。職員にもそれなりの知識を身につける取り組みが必要です。		先日の事です、終末期まで本人、家族が入院を拒否し施設で看たのですが、その場合、施設で急に心臓、肺が停止する事もある事を理解して頂きました。

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
49	○住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	環境の変化による入居者の精神状態を配慮し、関係者や職員、家族、入居者の間で十分な検討や話し合いを行っています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	入居者一人ひとりに見合った会話や言葉かけを行い、人格を否定するようなことはないように周知しています。		円滑なサービスを提供するための個人情報は必要最小限の範囲内で使用する事の同意書を頂いています。また広報誌、WEB掲載に関する同意書を頂いています。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	入居者の意向が反映できるように心掛け、選択の機会を作ったり、選択を歓迎したり、喜び合ったりするようにしています。決して押し付けにならないように周知しています。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	ホームとしての一日の基本的な流れや生活リズムへの配慮がされており、入居者の生活歴、体調やペースを大切にしたいその人らしい生活を送れる様に支援しています。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	毎日の服は職員が決めるのではなく季節に合ったお気に入りの自分で選んだ服を着用しています。理美容はほとんどの入居者は訪問で満足していますが、希望を聞き入れる事に努めています。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事の際は職員が同席し、同じ食事を取りながら楽しく食事ができるように支援しています。利用者の中で職員の見守りによりで食事の下ごしらえや下膳など可能な作業をしています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	お酒、タバコ等の制限はしていません。ただ、疾患の問題がある方には医師、家族の承諾を得ています。喫煙する方には場所を設けてコミュニケーションの場となっています。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	一人ひとりの排泄状態を把握し、必要に応じて定期誘導などの介助を行っています。		排泄チェック表を活用しています。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	利用者はプライバシーを保持し、気の合った者同士の入浴できるように、また希望により入浴し、必要に応じ介助を行いながらできるだけ入浴拒否がないように心がけています。	○	現在は決められた曜日、時間帯に入浴しています。できれば一人ひとりの希望時にゆっくりと入浴して頂きたいと思います。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	消灯時間後も居室でテレビを見ていたりするのは自由です。自分の使い慣れた寝具を使用し、それぞれが満足し休息、睡眠ができるように取り組んでいます。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	日常的にはトランプやオセロ、カラオケ、将棋、囲碁などでいつでも楽しめるようにしてあります。また、簡単な調理補助、洗濯物たたみなどを喜んでお手伝いしてくれています。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	自分でお金の管理ができる方は家族の理解を得て、訪問販売のヤクルトや菓子を購入しています。	○	お金を持つことで安心する入居者も多いですが、「あったはずのお金がない」などの訴えなどがある事もあるので使ったものについては家族の確認をもらっています。

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	散歩や買い物、通院介助、外出行事など入居者一人ひとりの希望を聞きながら外出を楽しめる支援がされています。今年度はインフルエンザの流行のため外出行事が中止されています。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	一人ひとりが行ってみたい場所を聞いて外出行事等の企画などを行っています。	○	家族の協力を得て支援して行きたいです。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話は自分の居室にある入居者も居ますが、ない入居者には事業所の電話を使用してもらっています。手紙は代筆なども行い支援しています。また、家族にはFAXを利用している方もいます。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	家族、知人、友人などの訪問は大歓迎です、一緒に過ごせる時間を大切に思っています。宿泊も可能となっています。	○	家族によっては面会が極端に少ない方もいます。今後も協力、理解を求め、利用者が寂しい思いをしないように支援していきます。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	職員には身体拘束の対象となる具体的な行為を理解してもらっています。定期的な身体拘束廃止委員会会議を開催し、取り組んでいます。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	すべての職員がカギをかけない安全な暮らしについて理解しています。鍵をかけないケアを実践しています。	○	今まで使用した事はありませんが、緊急性のある時のため、鍵はついています。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
67	○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	職員は常に入居者を見守りやすい場所にいて一人ひとりの様子を把握し対応しています。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	入居者の状況に合わせて、家族と相談し了解のうえで居室に置いている入居者も居ますが、基本的には事務所に預かったり、家族に返しています。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	緊急時の対応は消防等の機関を通じ受けています。今までに行った転倒、誤訳等に関しては事故の状況を把握し、事故再発防止のため取り組んでいます。		
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	消防署による普通救命講習を受講しています。また、マニュアルを作成し対応しています。急変時には協力医が24時間対応をしてくれます。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	消防署の指導による避難訓練を年2回以上実施しています。運営推進会議においても地域の方々の理解と協力を得ています。	○	夜間帯の非難訓練も行っています。地域住民の協力も得れのための体制作りを努力していきます。
72	○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている。	入居時の際にも環境の変化や身体状況にて起こりうるリスクの説明や話し合いを行い、リスクが考えられる際には、都度家族への報告、連絡、相談を行いながら職員にも周知した対応を行っています。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	入居者の状態についてはケース記録や毎日の血圧等を記録してある温度板にてすぐに把握出来るようになっていきます。また、協力医院との連携にて時間外にでも対応が図れています。	○	入居者の体調変化時にはすぐにバイタルサインチェックを行う事を職員に徹底しています。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	入居者一人ひとりの一回分を分封し投与しています。薬の目的、副作用、用法や用量を徹底的に指導し、ケース記録の中に貼付しています。薬が変更になった時にはすぐに対応しています。		誤薬防止のためのマニュアルを作成しています。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	水分の適量摂取を心がけて一日の水分摂取量のチェックを行うと共に歩行訓練などの運動をするように呼びかけています。また、服用している便秘薬、排便状態を把握しています。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	口腔状態を確認し、歯磨き、うがい、義歯の清掃は毎食後入居者の状況に応じて行っています。		必要に応じ歯科医への相談、往診を行っています。
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	摂取カロリーの正確な係数は掴んでいませんが、系列の食事部会により献立が立てられ、摂取カロリーや栄養バランスを配慮しながら検討されています。これを更に各ユニットで独自に調整を行い利用者の食事量、水分摂取量を把握しています。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウィルス等)	入居時には感染症の検査を行っています。職員には常に手洗い、手指消毒を義務付け必要時には手袋、マスク等を使用しています。感染症予防の研修会を開催し、マニュアルにそった対応をしています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	台所や調理器具等は常に消毒を行うよう指導しています。また食材においても新鮮な食材を使用、管理を行っています。また、季節柄において食中毒の恐れのある食材に関しては期間を限定して使用していません。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関の周りには利用者と職員がプランターに花を植え、家庭的な雰囲気づくりに努めています。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節に合ったディスプレイを行い、通路は広々として明るく開放感があり、居心地良く過ごせる工夫をしています。	○	利用者の苦情等もなく、廊下の手すりは改善していません。今後の状況に応じ検討していきます。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	食堂や談話室は常に入居者同士の団欒の場となり、トランプやオセロなど自由なくつろぎ空間となっています。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室は23畳と広く、各室にトイレとシャワールームが設置されています。利用者本人が使い慣れた馴染みの家具や装飾品、利用者によっては仏壇や植物を持ちこみ、家庭の延長の雰囲気の中で安心して暮らせる場所となっています。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがなくよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	季節などに合わせ、居室、廊下の窓の開閉にて換気を行っています、冬季の温度調整は暖房器具の調整などによりこまめに行っています。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				

項目		取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	廊下には手すりを設け、必要に応じ車椅子や歩行器が利用できる環境にしています。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	居室にはそれぞれのオリジナルの表札を付けている事で、自分の居室がわかるようになっています。常に職員の見守りの中で自立した生活が送れるように支援しています。		
87	○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	建物の外回りには物干し台を設置し、一緒に洗濯物を干したり、プランターの花に水をあげたりできるようになっています。また、味覚祭などの行事を行っています。		

Ⅴ. サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんど掴んでいない 2
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない 2
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんどいない 2
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんどいない 2
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんどいない 2
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんどいない 1
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2／3くらい ③利用者の1／3くらい ④ほとんどいない 2
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	①ほぼ全ての家族 ②家族の2／3くらい ③家族の1／3くらい ④ほとんどできていない 2
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない 1

Ⅴ. サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない 1
98	職員は、生き生きと働いている	①ほぼ全ての職員が ②職員の2／3くらいが ③職員の1／3くらいが ④ほとんどいない 1
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2／3くらいが ③利用者の1／3くらいが ④ほとんどいない 2
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2／3くらいが ③家族等の1／3くらいが ④ほとんどいない 2
【特に力を入れている点・アピールしたい点】		
(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)		
グループホームプランタンに入居した事により本人はもちろん、家族にも安心して頂けるように支援を行っています。		